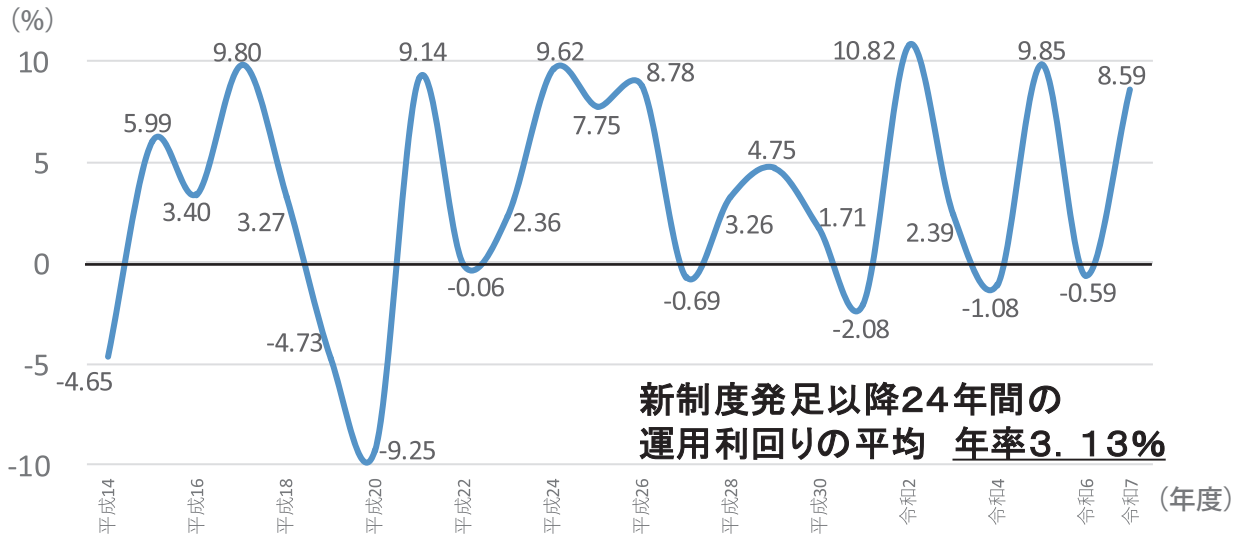


資料　「運用に関する情報」

～アンケートご回答前にご覧ください～

図表１　農業者年金のこれまでの運用利回りの推移（過去２４年間）



新制度発足以降24年間の
運用利回りの平均　年率３．１３%

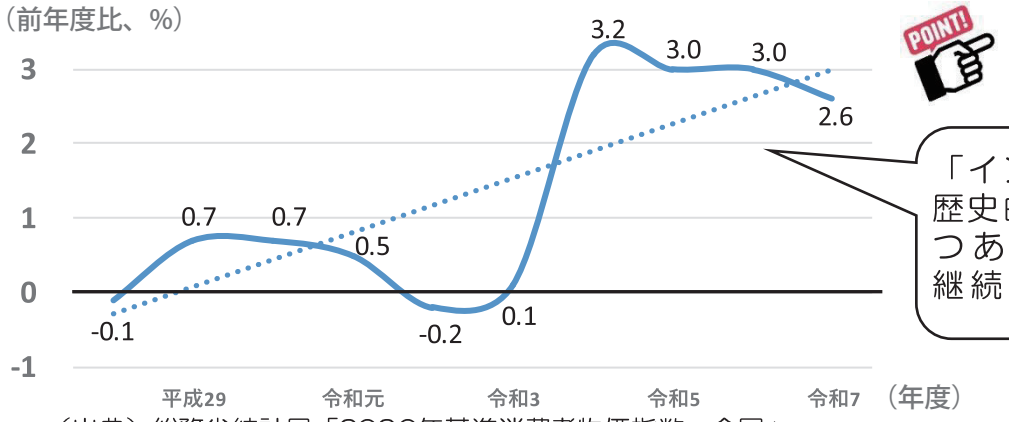
１人ひとりの農業者を応援する

農業者年金



図表２　消費者物価指数と１０年国債利回りの推移

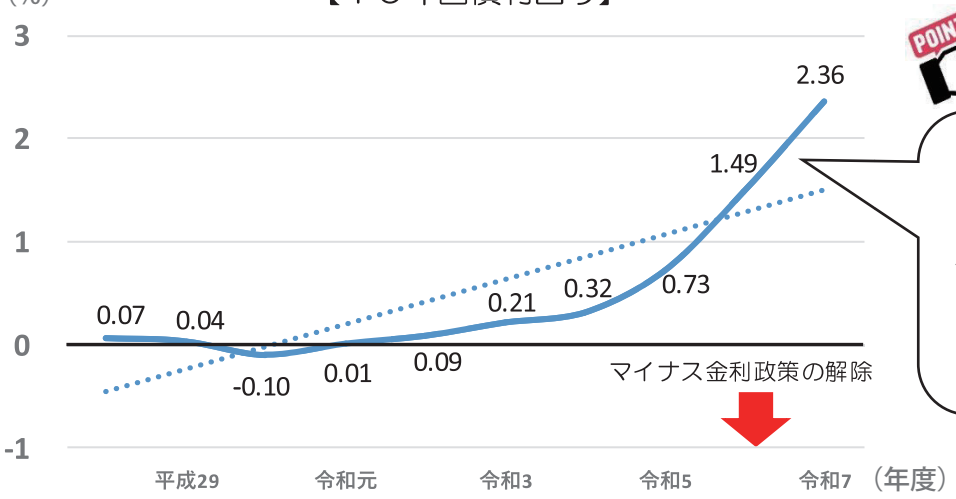
【消費者物価指数（総合）】



「インフレ」局面への歴史的な転換を迎えつつあり、物価上昇が継続しています。

（出典）総務省統計局「2020年基準消費者物価指数　全国」

【１０年国債利回り】



令和６年に日本銀行がマイナス金利政策を解除してから約２年半が経過する中で、段階的に政策金利が引き上げられ、金利上昇が継続しています。

（出典）日本証券業協会「公社債店頭売買参考統計値」

図表３　インフレと資金運用との関係（イメージ）

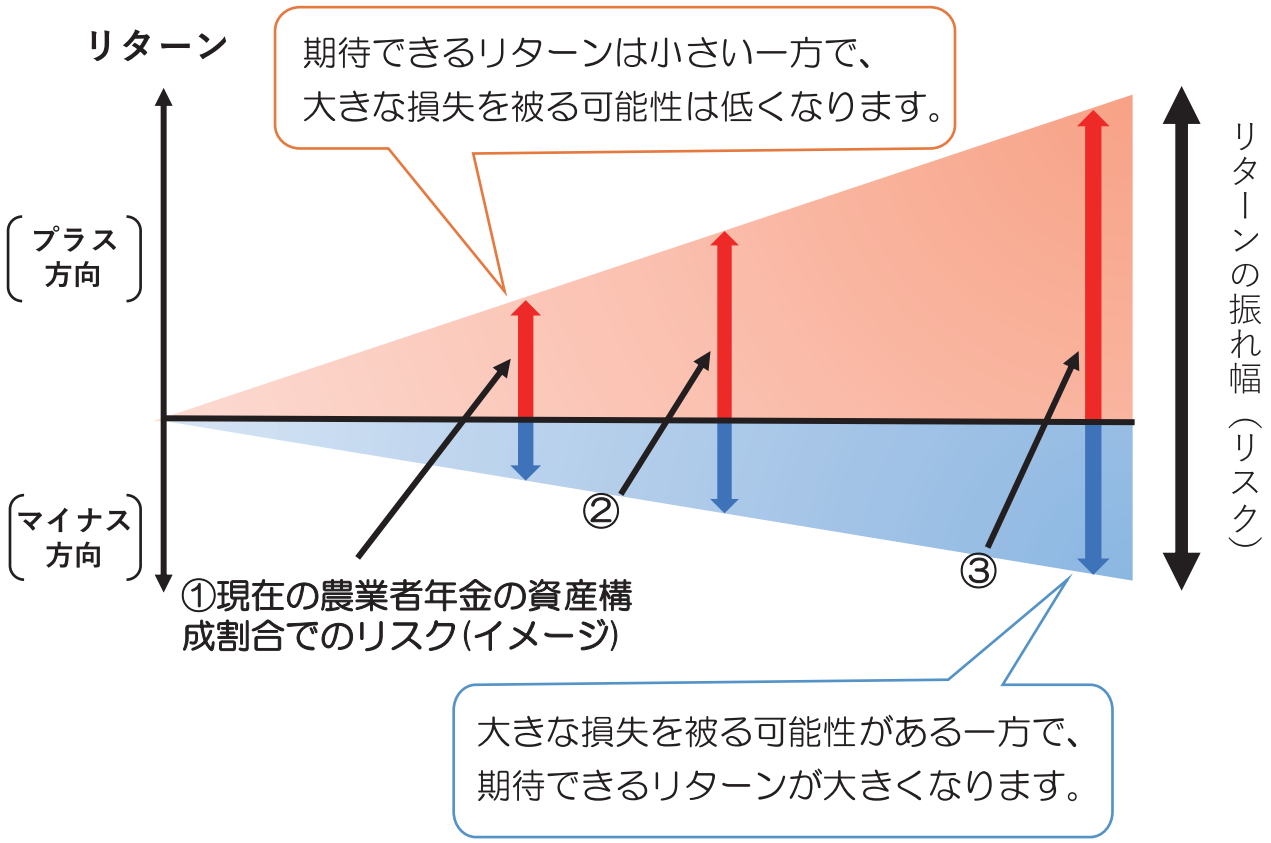
インフレとは物価が継続的に上がり、お金の価値が相対的に下がること

預貯金　現在の100万円　→　年１%の複利で預けると？　→　20年後 約122万円

物　価　現在の価格100万円　→　毎年２%ずつ物価が上昇すると？　→　20年後の価格 約149万円

低リスクの預貯金や債券は、物価が上がることで相対的に価値が減る可能性⇒「リスク資産」による資産運用で対策

図表４　リターンとリスクとの関係（イメージ）



（注１）一般的には、『国内債券＜外国債券＜国内株式＜外国株式』の順にリターン・リスクが大きくなります。
（注２）リスクを大きくすると、損失額が大きくなる可能性も高まるため、付利準備金（※）による補てんが実施できなくなる可能性も高まります。

※　付利準備金（令和８年６月末現在、約９６億円）

農業者年金では、一定水準以上の運用成績が得られた場合に運用収入の一部を付利準備金として積立てており、次のようなケースに補てんを行います。

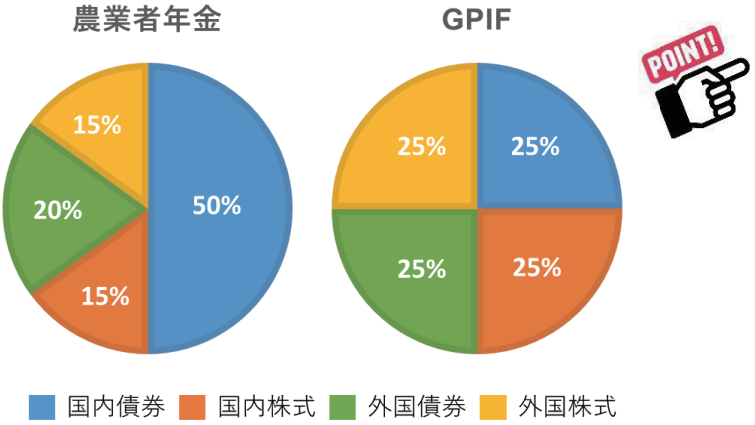
（ア）65歳以降の年金裁定時に、付利累計額がマイナスとなる場合
（イ）各年度の付利原資がマイナスとなる場合

【（イ）の補てんについての留意事項】
◆（ア）の必要な水準を確保している場合に、（イ）の補てんを行います。

図表５　農業者年金と年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）（※）の基本ポートフォリオと運用利回りの推移（直近１０年間）の比較

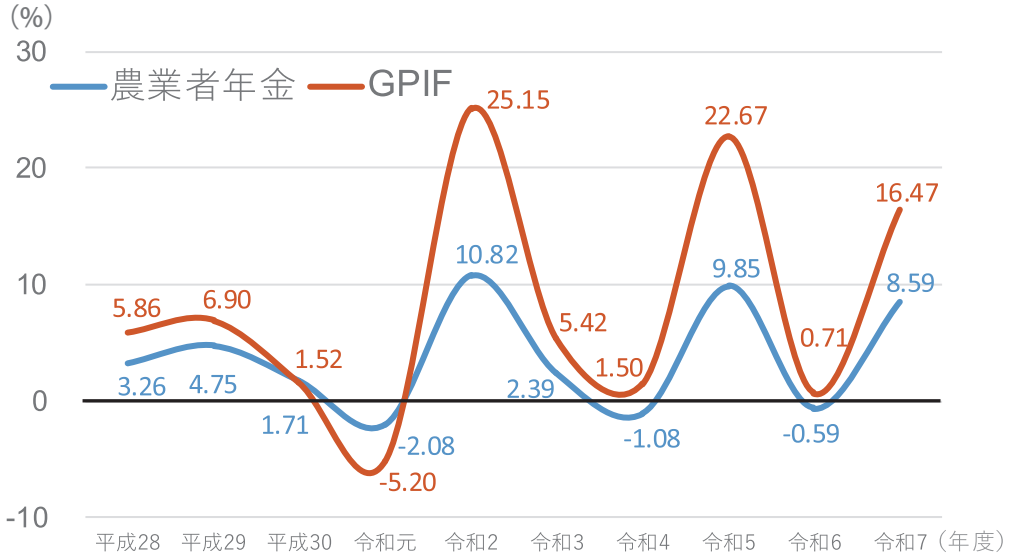
（※）GPIFは、厚生労働大臣から寄託された国民年金や厚生年金保険の年金積立金の管理及び運用を行っています。

〔比較１〕基本ポートフォリオ（令和８年６月）



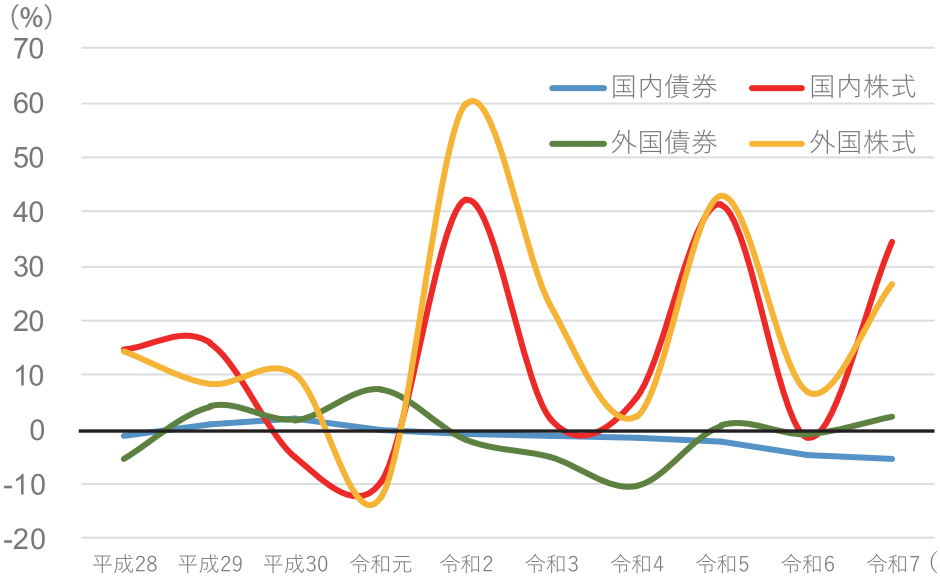
農業者年金はGPIFに比べ国内債券の割合が高いことから、リターンの振れ幅（＝リスク）が小さい反面、大きなリターンは期待できない傾向にあります。

〔比較２〕農業者年金とGPIFの運用利回りの推移（直近１０年間）



（出典）農業者年金基金ホームページ及びGPIF「業務概況書」

〔参考〕主要インデックスの推移



国内債券：NOMURA-BPI総合
国内株式：TOPIX（配当込み）
外国債券：FTSE世界国債インデックス（日本、中国を除く。円換算）
外国株式：MSCI-KOKUSAI